

A-109 北上山系の一山村における婦人の栄養水準と血液性状値の検討(第1報)

—栄養素および食品の摂取状況について—

岩手県立盛岡短大 ○森 成子・斎 藤 憲・佐々田裕美子

目的 山村における食生活と健康についての関連性を多角的に検討することを目的として、県内で脳卒中死亡率の高い山村を選定し、家庭の中で健康管理の中心となつてゐる婦人の栄養状態と血液性状値について比較検討した。第1報では栄養状態について報告する。

方法 昭和52年8月1日から5日までの3日間、岩手県中央北上山系の川沿いに南けており、総面積の93%が森林である下閉伊郡川井村・鈴久名地区の30歳から65歳までの婦人98名を対象に国民栄養調査に準ずる個人秤量調査法を用い、併せて食習慣、生活時間、自覚症状等についても面接聞きとり方式で行つた。その回収率は71.4%であつた。

結果 1) 栄養素摂取状況：結果値を栄養所要量と比較してみると、たん白質とVCを除いては全体的に低く、とくにVA(44.6%)、VB₂(48.0%)は50%以下であつた。ついで脂肪(52.9%)、Ca(64.2%)、VB₁(64.7%)の順であつた。次に50年の国民栄養調査結果(その他の農業)と比較してみると、全体的に低く、とくにVC(53.8%)、とVA(54.8%)が50%台で低く、ついで60%台が動物性たん白質(60.8%)、VB₂(61.2%)、脂肪(61.5%)、VB₁(64.0%)であつた。

2) 食品群別摂取状況：結果の偏差値をみると、非常に高く、変異系数1.00以上が9食品群で見られ、半分以上であつた。次に結果値を手塚らの食糧構成例と比較してみると、いも類、みそ、淡色野菜、海草、魚介類を除いては低く、とくに乳類(23.0%)、獣鳥肉類(30.8%)、油脂類(31.6%)、さとう(33.6%)、緑黄色野菜(38.3%)、果実類(38.5%)が40%以下という低さであつた。また、50年の国民栄養調査結果との比較では、淡色野菜(172.9%)とみそ(140.3%)が大巾に高く、獣鳥肉類(27.1%)、果実類(31.4%)が極端に低い値であつた。